

全労金2017春季生活闘争ニュース・第6号

東北・近畿・沖縄労組の要求概要と 単組委員長の決意を紹介します！

◎東北労組の要求概要

	東北労組（金庫）					東北労組（関連）				
	正職員	契約職員			個別契約職員	正社員	契約社員	ビル管理社員	代理店 契約社員	再雇用 嘱託社員
		S	P	C A						
安定雇用	—	(無期転換権は実現) (登用制度は実現)			—	(無期転換権は実現) (登用制度はないが登用実績あり)				—
最低賃金	時間額950円、日額6,970円、月額146,500円への引き上げ					—				
基本賃金	定期昇給 の実施	定期昇給の実施 +月額2,000円の引き上げ			月額5,000円の引き上げ 賃金表の策定	月額5,000円の引き上げ		月額2,000円 の引き上げ	2016年度 と同様	
一時金	4.5	4.5	2.7~ 3.6	1.0	契約職員と同月数(勤続 年数を適用)の支給	4.0	1.0~3.6			—
昨年実績	4.5	4.5	1.7~2.6	40,000	1.3	3.8	0.0~2.6			—
雇用環境	—	私傷病・欠勤休職制度 ジョブリターン制度の確立				私傷病欠勤・休職制度 —				
単組独自要求	— (積立休暇制度は2017年4月から導入)					忌引き休暇を正職員と同様				

《単組委員長の決意／東北労組・小野寺真洋委員長》

私たち東北労金労組は3月1日に第74回中央委員会を開催し、満場一致で2017春闘方針を確認しました。また、3月2日に全職場で行われた「スト権投票」では、99.9%の圧倒的高率でスト権を確立し、春闘交渉に向けた素地が整った所であります。

私たちは、連合・全労金春闘方針を踏まえ「格差是正」「公平・公正な処遇」を実現するべく、金庫契約職員、関連会社社員の月例賃金・一時金の改善とあわせ、「ジョブリターン制度」「私傷病欠勤・休暇制度」の確立を要求します。

金庫は、経済情勢や現在進めている経営改善策の確実な実施を盾として頑なな態度を示すことが想定され、これまで以上に厳しい闘いが予想されます。闘争委員会は、全国の仲間の皆さんとの連帯を確認し、「総合的な生活改善」「公平・公正な処遇」「安心して働き続けられる職場」を勝ち取るために「知恵と勇気と英知」を結集して闘い抜く決意であります。共に頑張りましょう！



◎近畿・沖縄労組の要求概要

	近畿労組（金庫）				近畿労組（関連）			沖縄労組	
	正職員	準職員			正社員	契約社員	嘱託社員	正職員	準職員
		A	B	C					
安定雇用	-	(無期転換権は実現) Bへの登用状況を把握 (登用制度は実現)		(無期雇用)	新制度の運用を確認する中で、 制度検討に関する協議を行う (登用制度は実現)		-	(無期転換権は実現) (登用制度は実現)	
最低賃金	(実在者の最低水準を引き上げる)				-			時間額950円、日額6,970円、 月額146,300円への引き上げ	
基本賃金	-	月額2,000円の引き上げ			2016年4月に人事賃金制度を移行しているため、 要求しない			-	
一時金	4.2	4.2	1.68	0.42	0.8	週5日：70,000円 週4日以内：40,000円		4.1	3.6
昨年実績	4.2	4.2	1.68	0.42	0.6+30,000	37,500～65,000		4.1	3.6
雇用環境	-	(私傷病欠勤・休職制度は実現) (「ジョブリターン制度」は制度協議)			-	私傷病は、無期転換権についての 制度検討とあわせて協議する -		-	私傷病欠勤・休職制度 (ジョブリターン制度あり)
単組独自要求	(「積立休暇制度」は制度協議)				福利厚生補助制度について、 正社員25,000円、契約・嘱託社員20,000円 に支給金額を引き上げ			-	年休付与日数 組織風土・職場風土改革を要求 (積立休暇制度はあり)

《単組委員長の決意／近畿労組・奥中優子委員長》

2017春闘は、①準職員の基本賃金改善（2,000円）、②年間一時金（4.2ヶ月）を要求として掲げ、実在者の最低賃金の水準を改善することで、労金業態で働くすべての労働者の「底上げ・底支え」に繋げるべく闘いを進めます。

近畿労金の置かれている経営状況、収益面の将来見通しは厳しさが増しています。そのような環境下だからこそ、私たちの「支え合い」「助け合い」の精神に基づいた事業・運動が求められます。私たち自身が「労働者自主福祉運動の担い手」としての自覚を持ち、労働金庫の存在意義や将来性を感じながら働く事や、私たちの職場での「共助と共生」を実現する事が大事だと考えます。

この春闘を通じて、「職員が生き生きと働ける環境や風土の醸成」を図り、準職員の処遇改善を進めることで、「職場の安定化」と「一体感のある強い職場づくり」を進めます。金庫や自分自身の未来に夢と希望を持ち、元気に働ける職場を作るために、全国の仲間と共に闘います。



《単組委員長の決意／沖縄労組・宮城一生委員長》

2017春闘では、これまでにない力強い闘いが求められると考えます。

私たち労働者は、労働条件を通じて評価され、安心して生涯生活設計が描ける社会へとしていかなければなりません。多くの仲間と結集し、労働運動を社会的運動へと進化させていくことで、



実現できると信じています。

すべての職員が納得できることが重要です。何故なら、いまや金庫にとってなくてはならないのは“人財”であり、モチベーションの向上に繋がることで、金庫事業に対しても良い結果を生み出すと考えているからです。喜びが実感できる最大限の誠意ある回答を求めるためにも、全労金組織と連帯した統一闘争を進めます。

労働組合では組合員の「声」と「団結」が原動力であり、無限大の可能性とエネルギーを秘めています。その原動力をさらに引き出し、職場で笑顔の連帯が続くことをめざし、闘争委員長としての決意表明とします。

※ 次号は3月9日(木)に配信予定です。

以 上